



天てんの つかいの タケミカツチが
オオクニヌシの前にまえ あらわれました。



「あなたの国は けんかばかりでさわがしい。
よって あなたの 国を
天の み子に ゆずるのだ。
いかがかな？」

「まて まて まていー！」

ノッシ ノッシと

おおおとて 大男が やってきました。

オオクニヌシの息子、 タケミナカタです。

「勝手に まねは させねえぞ！」

「岩で ぺしゃんこに つぶしてやるー！」



しかし タケミカツチは すごい顔。
とつぜん うでが カチン コチン、
カチコチの 氷に 変わったのです。

「なんて こったー！」

すると 今度は シヤッキーン！
すごい じんぎに なったのです。

「そんな ばかな、おったまげた。

おいらの 負けだ、ごめんなさーい。」

タケミナカタは
すたこらさっさと にげていきました。





「ど うですか、

この国を ゆずってくださいませんか？」

オオクニヌシは こたえました。

「あとは おまかせいたします。」

しあわせな国を 作ってください。」

オオクニヌシは 大きな ごてんで

しずかに くらすことにしました。



そのようすを すべて 見ていた
アマテラスさま、
まごの ニギノミコトを 呼び出しました。

「あなたが けんかのない
しあわせな国を 作るのですよ。」

「わかりました、おまかせください。」

ニギノミコトを のせた 雲が
すーい すーいと 下りていくと、
高い山に きれいな にじが。
「あのあたりが いい場所だ。
あそこで 暮らすことにしよう。」

